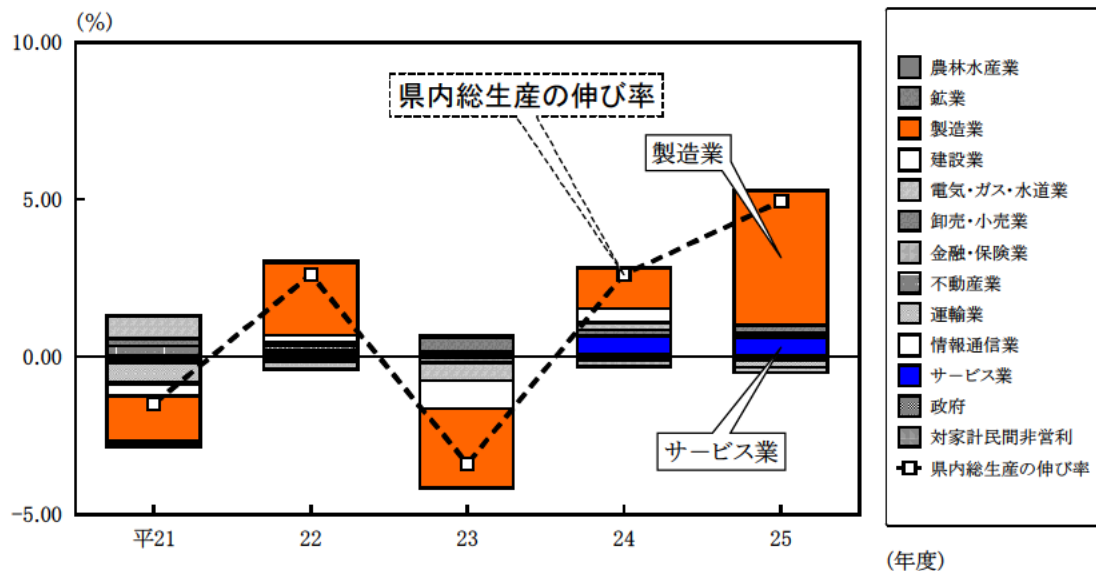


II グラフでみる三重の経済

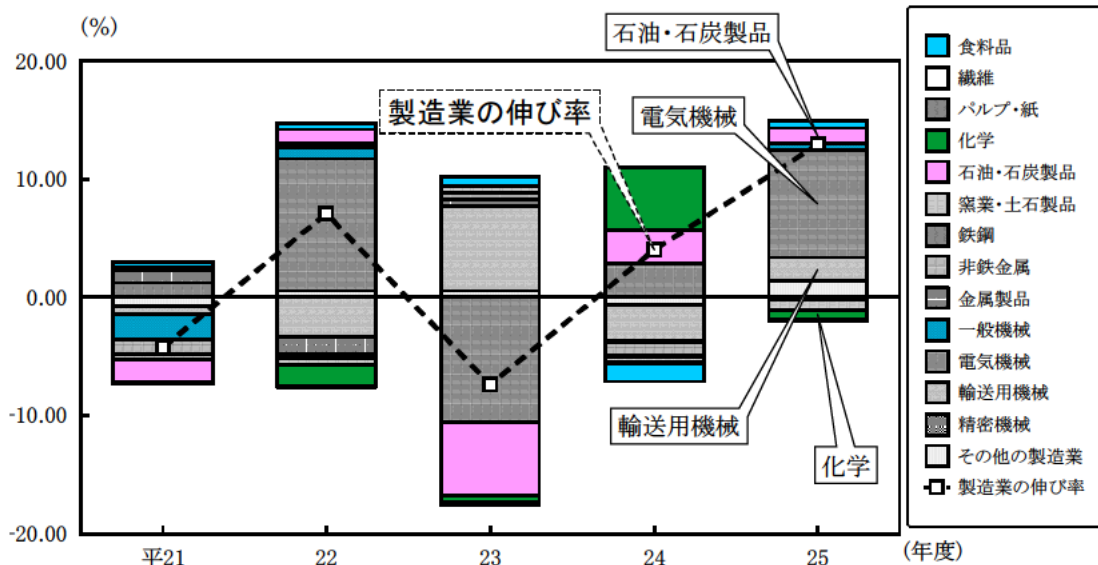
1 経済変動の要因分解

図II-1 県名総生産（生産側、名目）の伸びと経済活動別寄与度



平成25年度の名目経済成長率は4.9%で、製造業（寄与度+4.2%）が大きくプラスに寄与しました。他の年度においても、製造業が経済成長率に大きく寄与していることがわかります。

図II-2 製造業の伸びと業種別寄与度

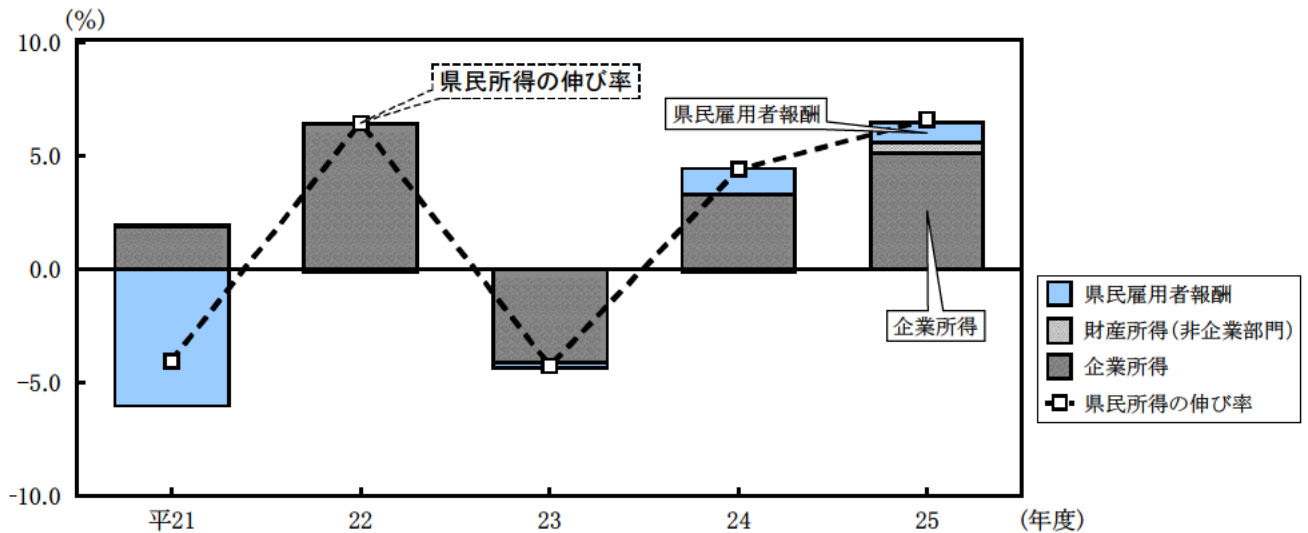


製造業の伸び率は12.9%で、電気機械（寄与度+3.0%）、輸送用機械（寄与度+0.6%）と石油・石炭製品（寄与度+0.5%）がプラスに寄与していますが、化学（寄与度-0.3%）がマイナスに寄与しました。

寄与度…全体の変動に対して、各構成項目の変動がどの程度影響を与えているかを示す指標で、各寄与度の合計は全体の伸び率と一致します。

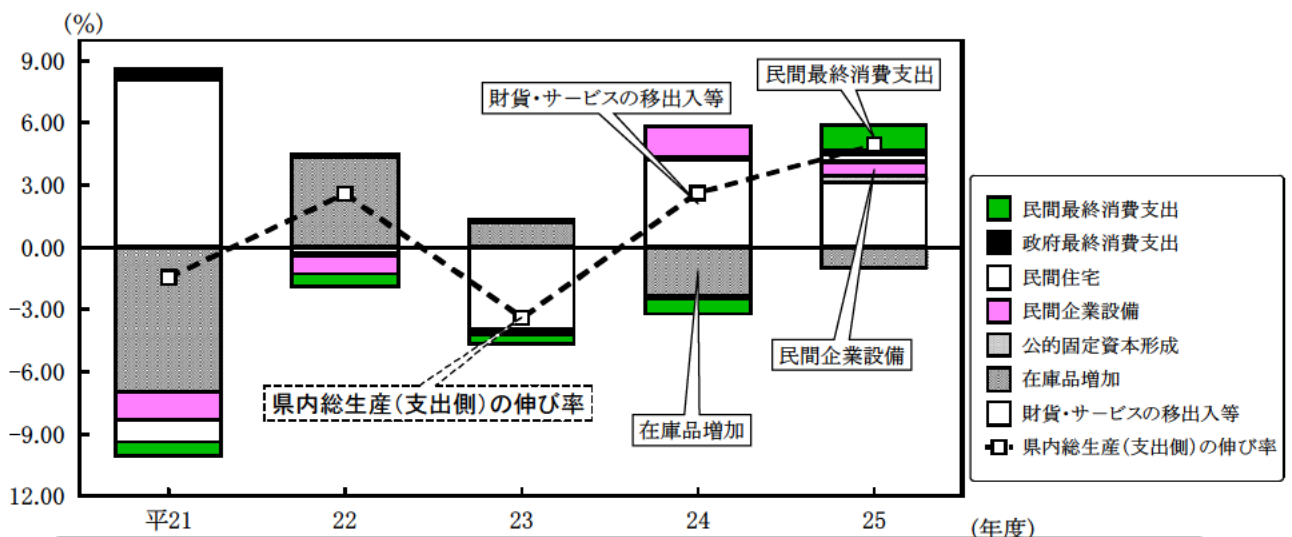
$$\text{寄与度} = \text{前期における構成比} \times \text{当期の前期に対する増減率}$$

図Ⅱ-3 県民所得（分配）の伸びと項目別寄与度



県民所得(分配)の伸び率は6.5%で、企業所得(寄与度+5.1%)、県民雇用者報酬(寄与度+0.9%)、財産所得(寄与度+0.4%)がプラスに寄与しました。

図Ⅱ-4 県内総生産（支出側、名目）の伸びと項目別寄与度

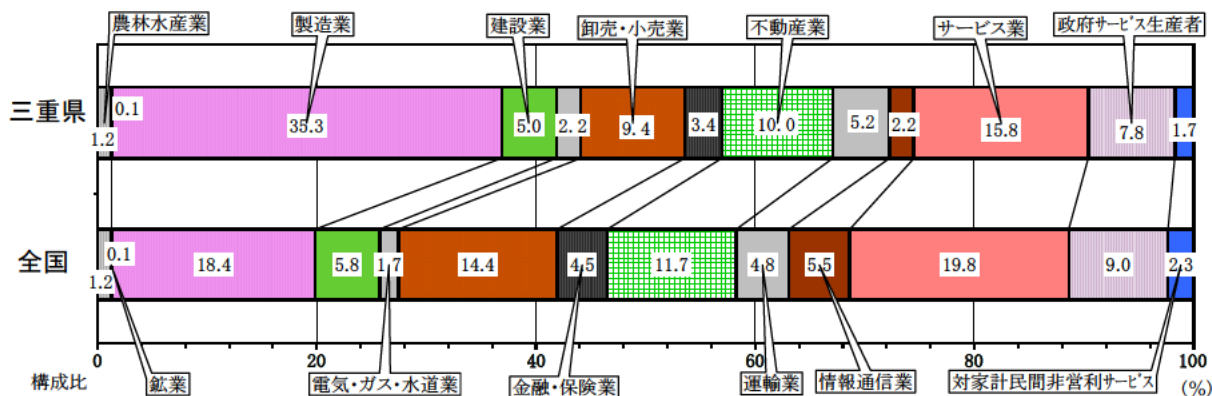


県内総生産(支出側、名目)の伸び率は4.9%で、民間最終消費支出(寄与度+1.2%)が6年ぶりにプラスに寄与したほか、民間企業設備(寄与度+0.7%)もプラスに寄与しました。

2 三重県の産業構造

(1) 経済活動別の構成比

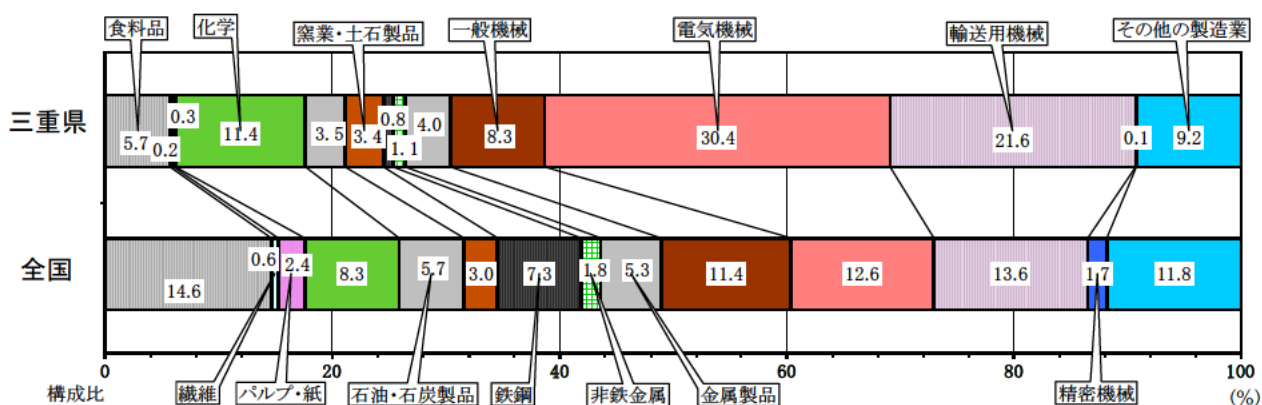
図Ⅱ－5 経済活動別の構成比



経済活動別に構成比をみると、製造業が35.3%で最も大きな割合となっています。次にサービス業が15.8%で、製造業と合わせると県全体の50%近くを占めています。全国と比べると、製造業は全国より高い割合となっていますが、サービス業や卸売・小売業は全国より低い割合となっています。

(2) 製造業の業種別構成比

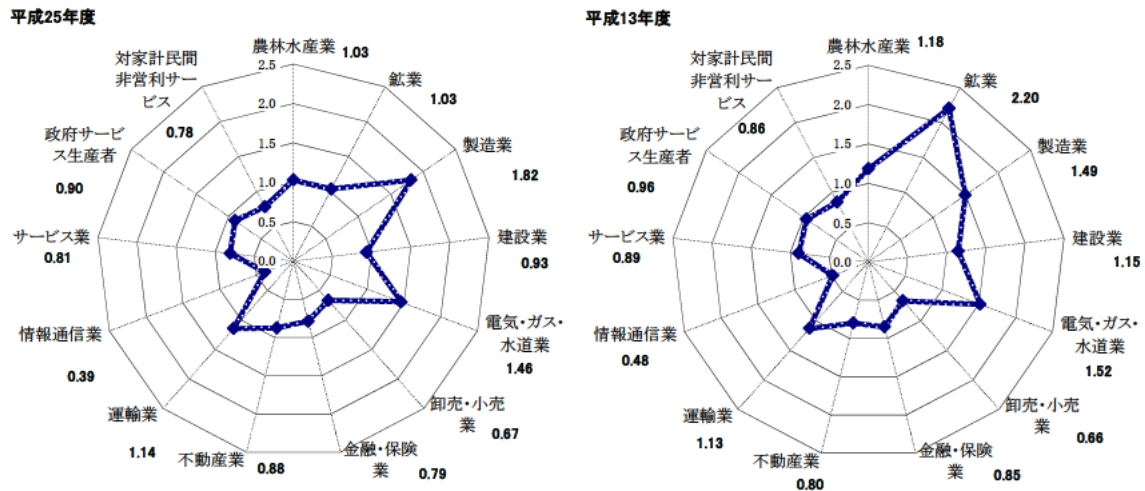
図Ⅱ－6 製造業の業種別構成比



製造業の構成比を業種別にみると、電気機械が30.4%で最も大きな割合となっています。次いで輸送用機械が21.6%、化学が11.4%などとなっています。全国と比べると、電気機械、輸送用機械や化学で全国より高い割合となっています。

(3) 経済活動別の特化係数

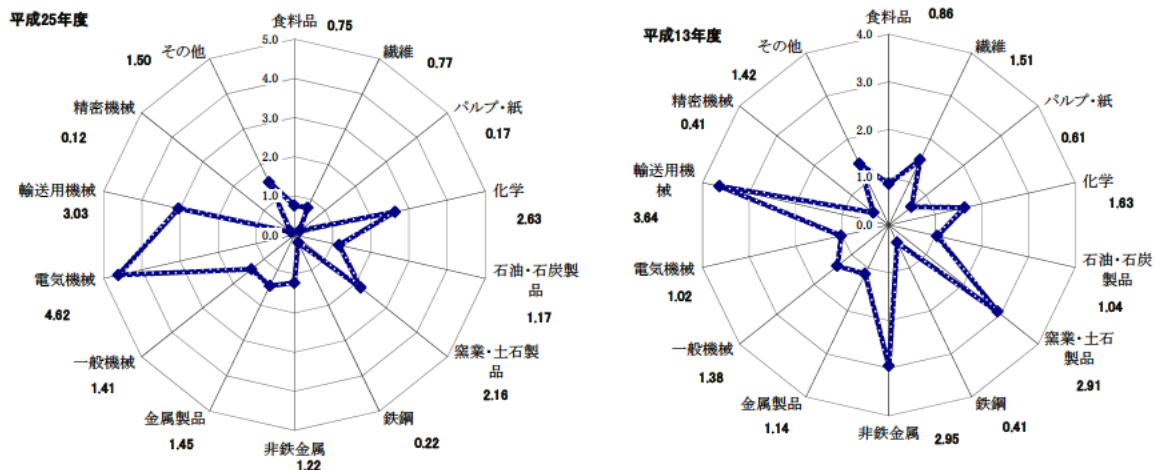
図Ⅱ－7 経済活動別（平成25年度、平成13年度）



本県の産業構造の特徴を、全国を1とする特化係数で見ると、製造業が1.82で最も高く、電気・ガス・水道業、運輸業などで1を超えています。
また、平成13年度と比べると、製造業や不動産業などは上昇しましたが、鉱業、農林水産業、電気・ガス・水道業などでは低下しました。

(4) 製造業の業種別特化係数

図Ⅱ－8 製造業の業種別（平成25年度、平成13年度）



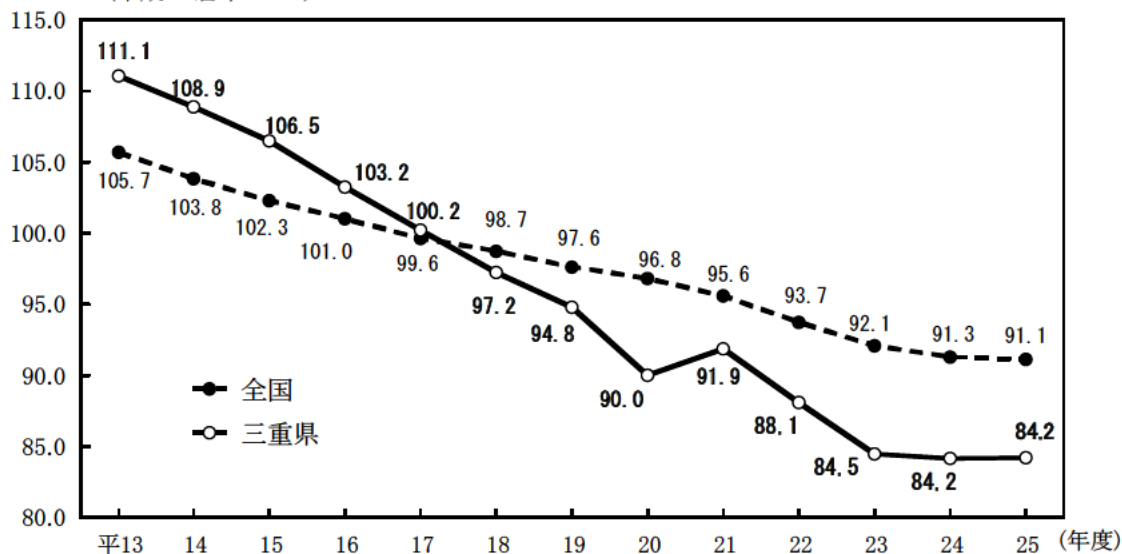
製造業の業種別に特化係数をみると、電気機械が4.62と最も高く、化学、窯業・土石製品や輸送用機械などで2を超えています。
また、平成13年度と比べると、電気機械が著しく上昇していることがわかります。

特化係数・・・産業別構成比などが全国と比べて高いか低いかをみるもので、1.00 を超えると、全国水準より比重が高く、その産業に特化していると言えます。
ここでは、特化係数 = 産業別構成比(三重県) / 産業別構成比(全国) としています。

3 デフレーター（連鎖方式）

図Ⅱ－9 デフレーターの推移

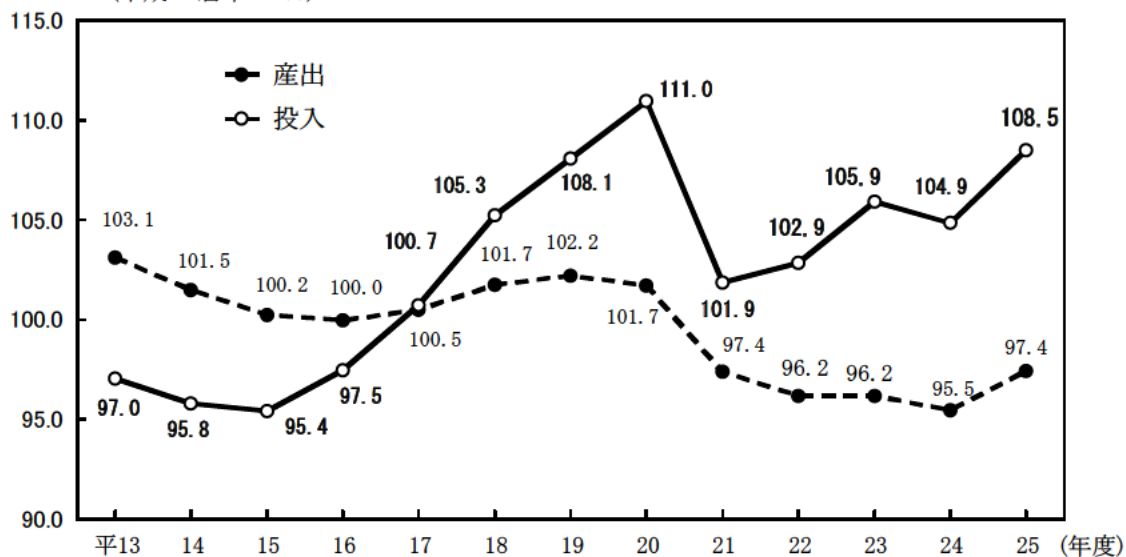
(平成17暦年=100)



平成21年度を除き下落を続けていたデフレーターは、平成25年度は横ばいとなりました。また、全国と比較すると、平成25年度で6.9ポイント下回っています。

図Ⅱ－10 デフレーター（投入、産出）の推移

(平成17暦年=100)

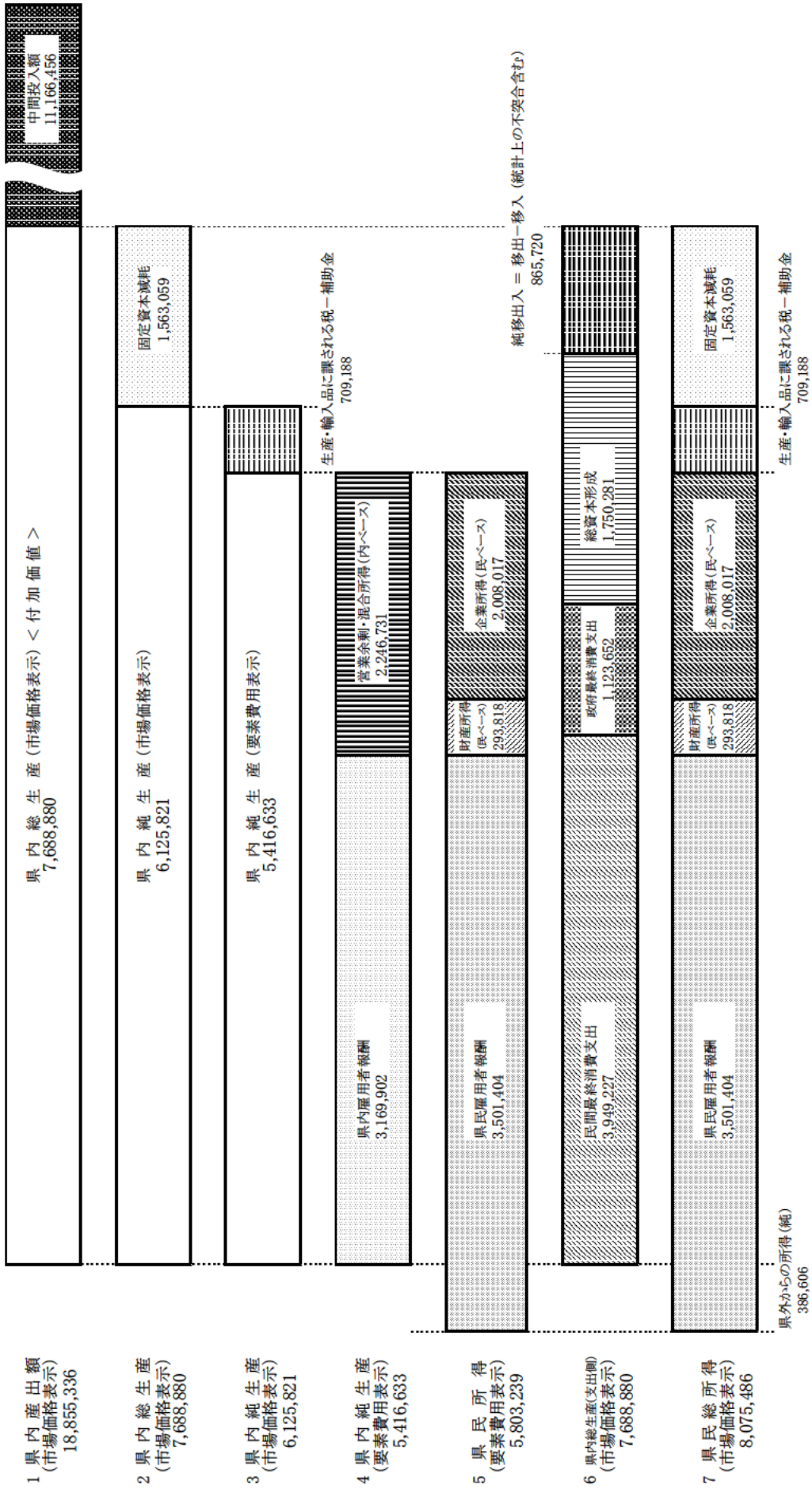


平成25年度の産出のデフレーターは2年ぶりの上昇となりました。また、投入も、6年ぶりに上昇しています。

(参考 1)

平成25年度県民経済計算推計値の相互関連

(単位：百万円)



(参考2) 統合勘定

(単位:百万円)

